

2 災害ボランティア等について

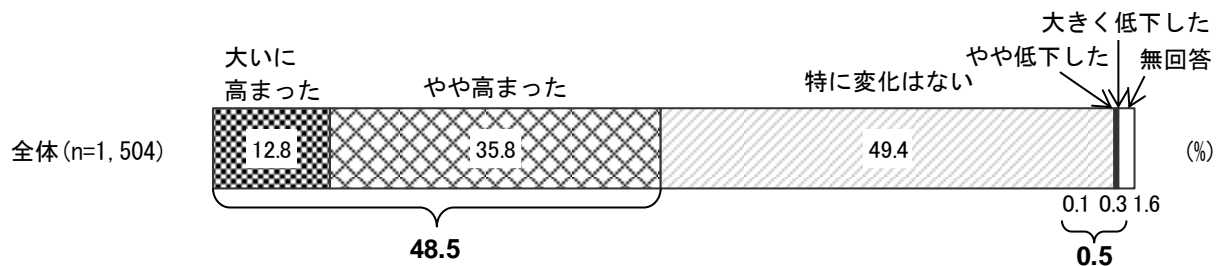
（１）市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度

◇『高まった（計）』が約５割

問４ あなたは、令和５年台風第１３号や令和６年能登半島地震を通じて、市民活動団体※の活動やボランティア活動への関心が高まりましたか。（○は１つ）

※ 「市民活動団体」とは、市民の自発性に基づき、福祉や子育て支援、まちづくり、環境等様々な分野の地域課題の解決のために、自立的・継続的に社会貢献活動を行う営利を目的としない団体（行政が認証したＮＰＯ法人やボランティア団体等任意団体）です。

<図表２－１>市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度

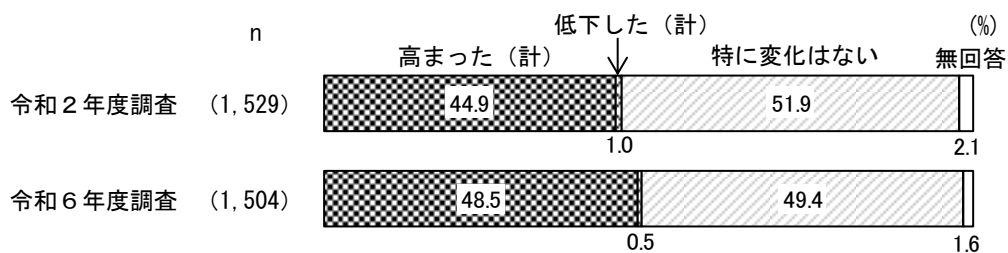


市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度について、「大いに高まった」（12.8%）と「やや高まった」（35.8%）を合わせた『高まった（計）』（48.5%）が約５割となっている。

一方、「やや低下した」（0.1%）と「大きく低下した」（0.3%）を合わせた『低下した（計）』（0.5%）は１割未満となっている。

また、「特に変化はない」（49.4%）は約５割となっている。（図表２－１）

〔参考〕令和２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

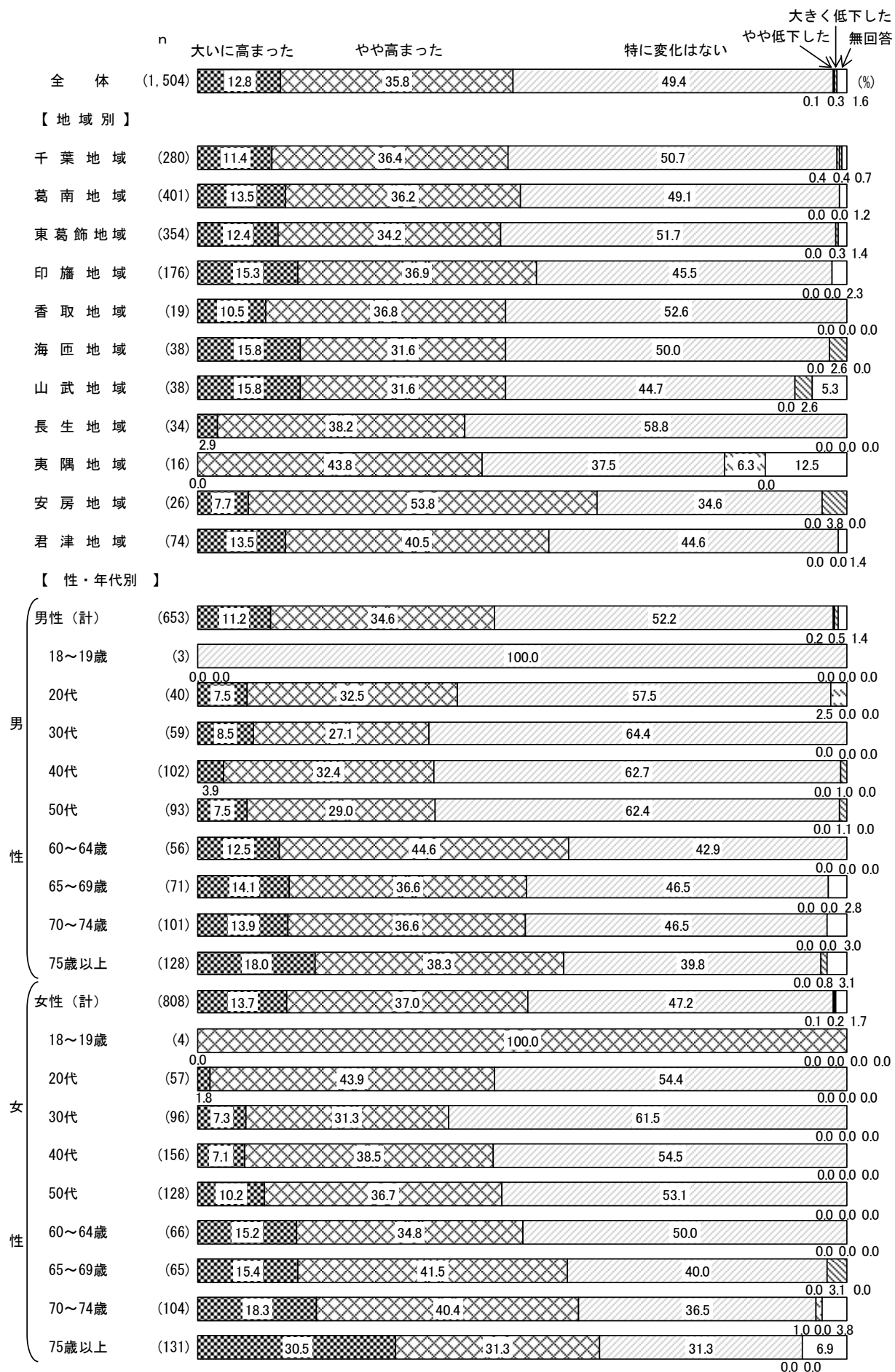
地域別で大きな傾向の違いはみられない。（図表２－２）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『高まった（計）』は、女性75歳以上（61.8%）で６割を超え、女性70～74歳（58.7%）で約６割となっている。

また、「特に変化はない」は、男性30代（64.4%）で６割台半ば、男性40代（62.7%）、男性50代（62.4%）、女性30代（61.5%）で６割を超えて高くなっている。（図表２－２）

＜図表 2－2＞市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度／地域別、性・年代別



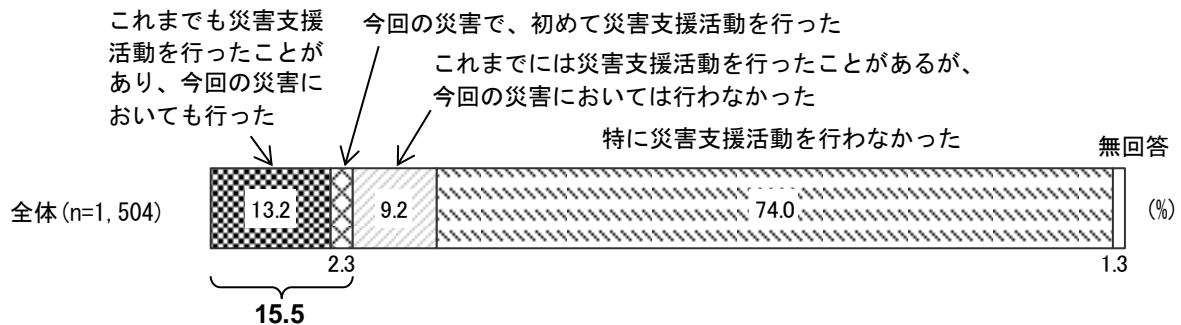
（２）令和５年、令和６年に発生した災害での災害支援活動の参加経験

◇『今回の災害で行った（計）』が１割台半ば

問５ あなたは、令和５年台風第１３号や令和６年能登半島地震において災害支援活動※を行いましたか。（○は１つ）

※ ここでいう「災害支援活動」とは、ボランティア活動への参加、被災した親戚・知人に対する支援、近隣被災住宅の片付け、自治体や市民活動団体への寄附、物資の提供など、広く被災者・被災地への支援を指します（以下の設問でも同様）。

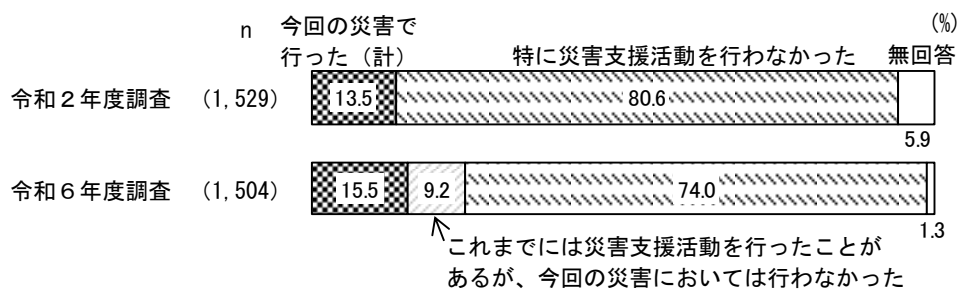
＜図表２－３＞令和５年、令和６年に発生した災害での災害支援活動の参加経験



令和５年、令和６年に発生した災害での災害支援活動の参加経験を聞いたところ、「これまで災害支援活動を行ったことがあり、今回の災害においても行った」（13.2%）と「今回の災害で、初めて災害支援活動を行った」（2.3%）を合わせた『今回の災害で行った（計）』（15.5%）が１割台半ばとなっている。

一方、「特に災害支援活動を行わなかった」（74.0%）は７割台半ばとなっている。（図表２－３）

〔参考〕令和２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



※令和２年度調査は、設問文「あなたは、令和元年房総半島台風等、令和元年に本県で発生した一連の災害において災害支援活動を行いましたか。」で実施

※「これまでには災害支援活動を行ったことがあるが、今回の災害においては行わなかった」は今回調査から追加

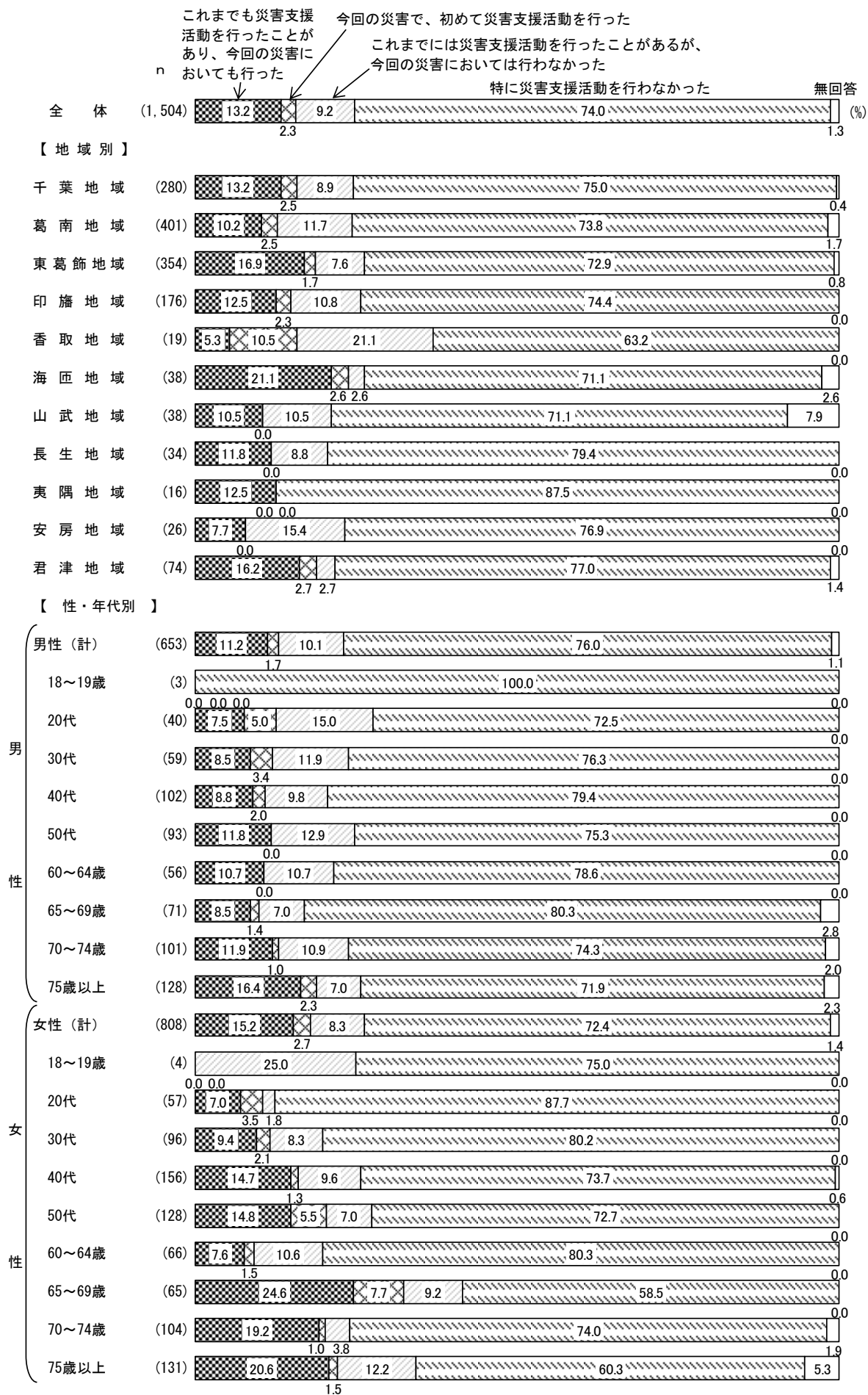
【地域別】

地域別にみると、「これまで災害支援活動を行ったことがあり、今回の災害においても行った」は“東葛飾地域”（16.9%）が１割台半ばで高くなっている。（図表２－４）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『今回の災害で行った（計）』は、女性65～69歳（32.3%）が３割を超え、女性75歳以上（22.1%）が２割を超えて高くなっている。（図表２－４）

＜図表 2－4＞令和 5 年、令和 6 年に発生した災害での災害支援活動の参加経験／地域別、性・年代別

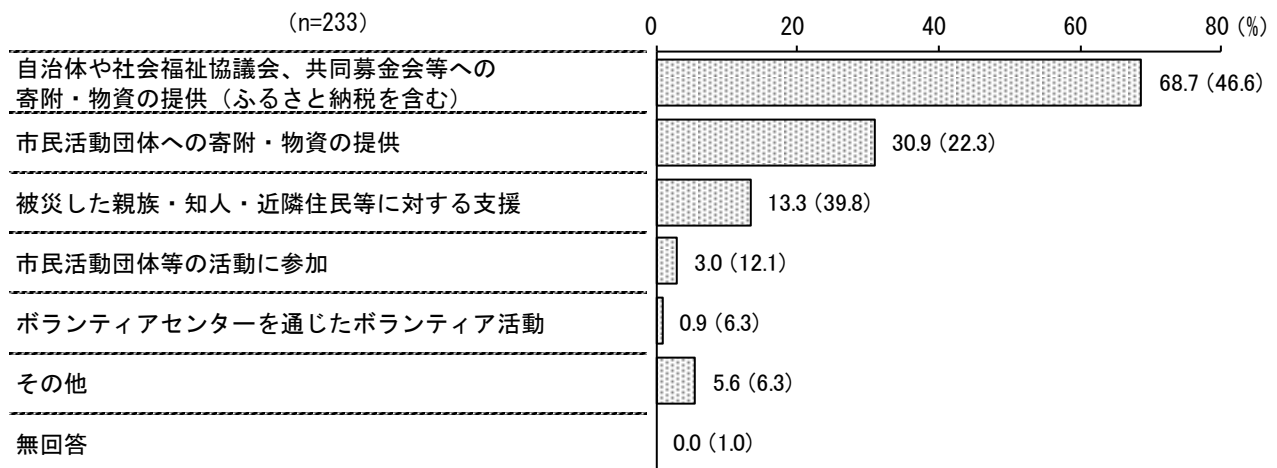


（２－１）参加した災害支援活動の内容

◇「自治体や社会福祉協議会、共同募金会等への寄附・物資の提供（ふるさと納税を含む）」が約 7 割

（問 5 で「これまでも災害支援活動を行ったことがあり、今回の災害においても行った」、
「今回の災害で、初めて災害支援活動を行った」のいずれかをお答えの方に）
問 5－1 災害支援活動の内容はどのようなものでしたか。（〇はいくつでも）

<図表 2－5>参加した災害支援活動の内容（複数回答）



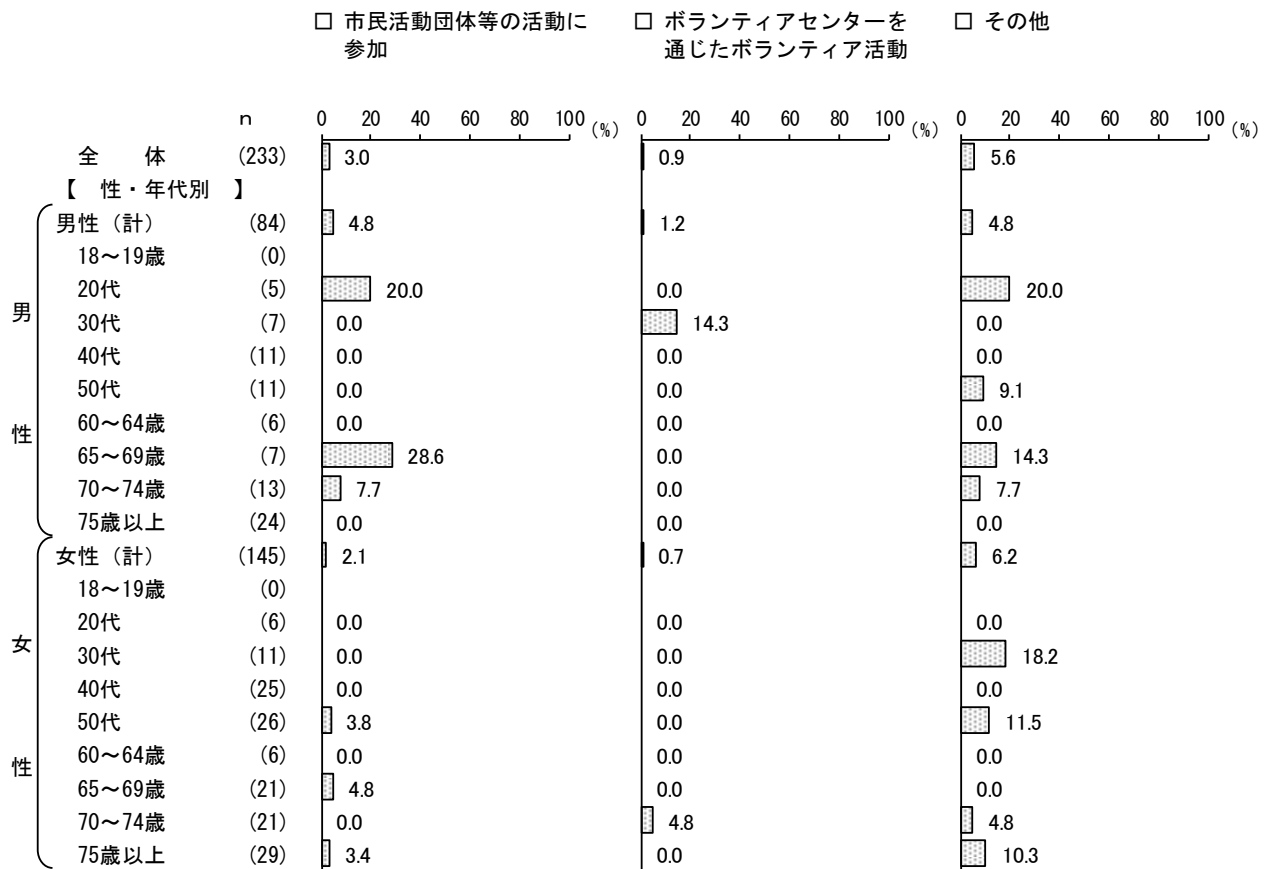
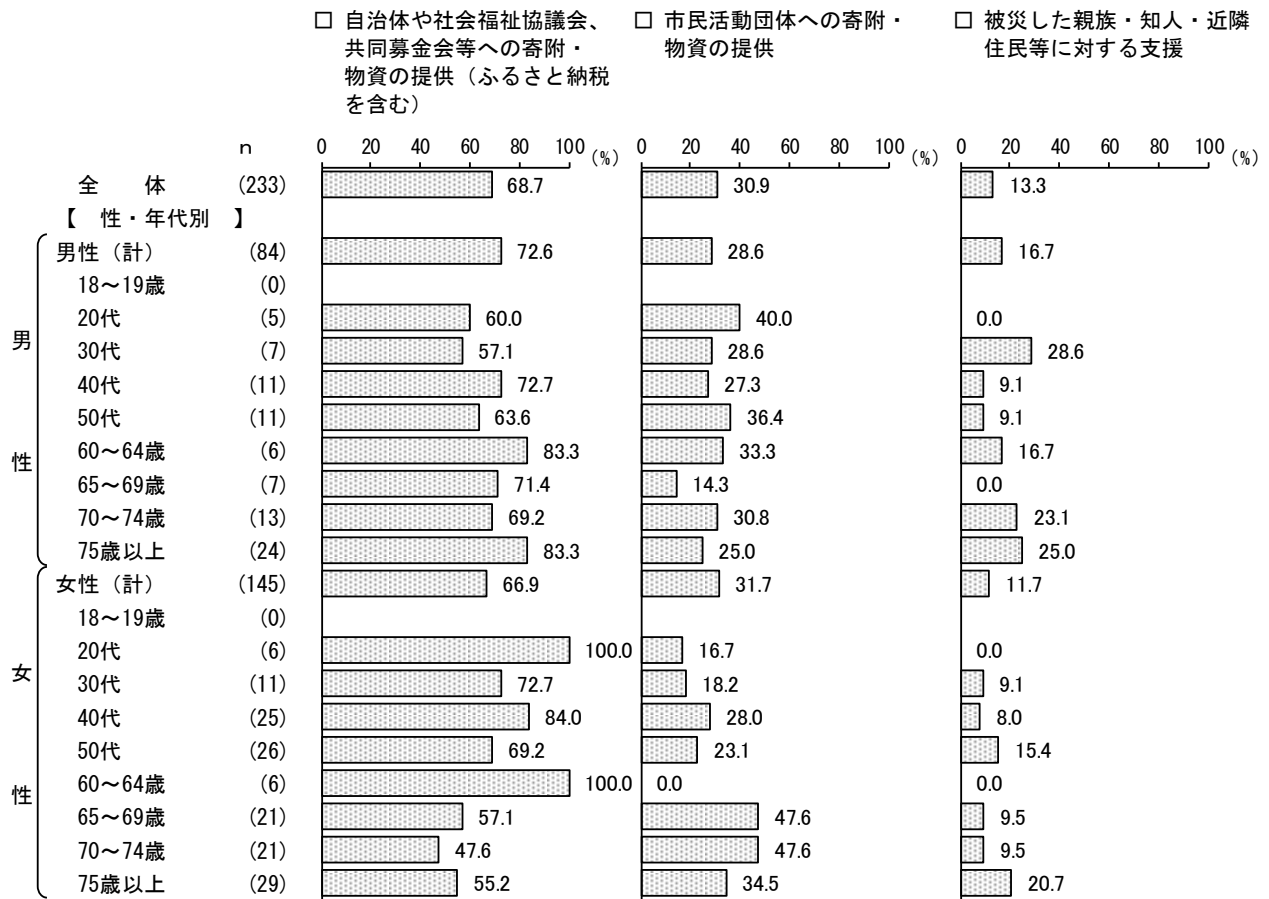
注）（ ）の数字は令和 2 年度の同様の項目による調査結果 n=206

参加した災害支援活動の内容について聞いたところ、「自治体や社会福祉協議会、共同募金会等への寄附・物資の提供（ふるさと納税を含む）」（68.7%）が約 7 割で最も高く、以下、「市民活動団体への寄附・物資の提供」（30.9%）、「被災した親族・知人・近隣住民等に対する支援」（13.3%）が続く。（図表 2－5）

※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。
（9ページ「報告書の見方（5）」を参照）（図表 2－6）

	n	0	20	40	60	80	100	(%)	0	20	40	60	80	100	(%)	0	20	40	60	80	100	(%)			
全 体	(233)					68.7								30.9								13.3			
【 地 域 別 】																									
千 葉 地 域	(44)					68.2								31.8								18.2			
葛 南 地 域	(51)					70.6								29.4								13.7			
東 葛 飾 地 域	(66)					74.2								34.8								6.1			
印 旛 地 域	(26)					73.1								23.1								15.4			
香 取 地 域	(3)					66.7				0.0												33.3			
海 匠 地 域	(9)					66.7								22.2								0.0			
山 武 地 域	(4)					75.0								25.0								0.0			
長 生 地 域	(4)			25.0										75.0								0.0			
夷 隅 地 域	(2)			50.0						0.0												0.0			
安 房 地 域	(2)			50.0										100.0								100.0			
君 津 地 域	(14)					50.0								28.6								21.4			

	n	0	20	40	60	80	100 (%)	0	20	40	60	80	100 (%)	0	20	40	60	80	100 (%)
全 体	(233)						3.0						0.9						5.6
【 地 域 別 】																			
千 葉 地 域	(44)						2.3						0.0						9.1
葛 南 地 域	(51)						2.0						2.0						7.8
東 葛 飾 地 域	(66)						4.5						0.0						3.0
印 旛 地 域	(26)						3.8						0.0						7.7
香 取 地 域	(3)						0.0						0.0						0.0
海 匝 地 域	(9)						11.1						0.0						0.0
山 武 地 域	(4)						0.0						0.0						0.0
長 生 地 域	(4)						0.0						0.0						0.0
夷 隅 地 域	(2)						0.0						50.0						0.0
安 房 地 域	(2)						0.0						0.0						0.0
君 津 地 域	(14)						0.0						0.0						7.1

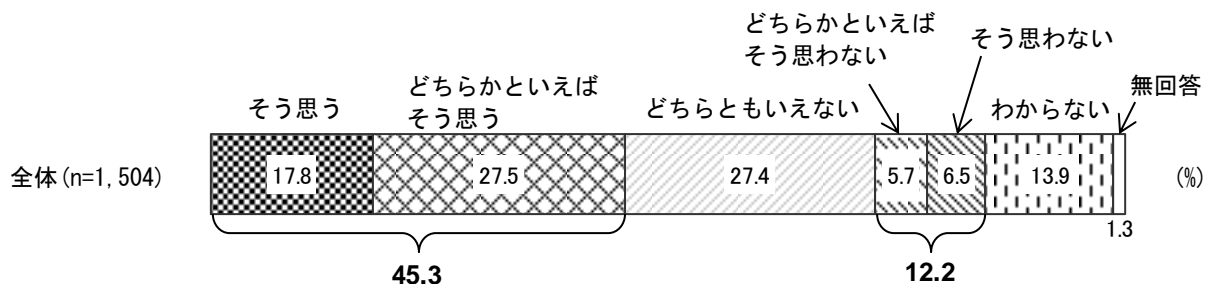


（３）今後の災害支援活動への参加意向

◇『そう思う（計）』が４割台半ば

問６ 今後、災害が発生した際（県外での発災も含む）に災害支援活動を行いたいと思いますか。
（○は１つ）

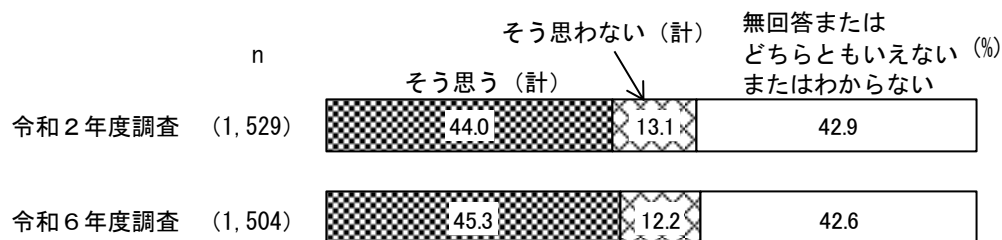
<図表２－７> 今後の災害支援活動への参加意向



今後の災害支援活動への参加意向について、「そう思う」（17.8%）と「どちらかといえばそう思う」（27.5%）を合わせた『そう思う（計）』（45.3%）が４割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（5.7%）と「そう思わない」（6.5%）を合わせた『そう思わない（計）』（12.2%）が１割を超えている。（図表２－７）

【参考】 令和２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



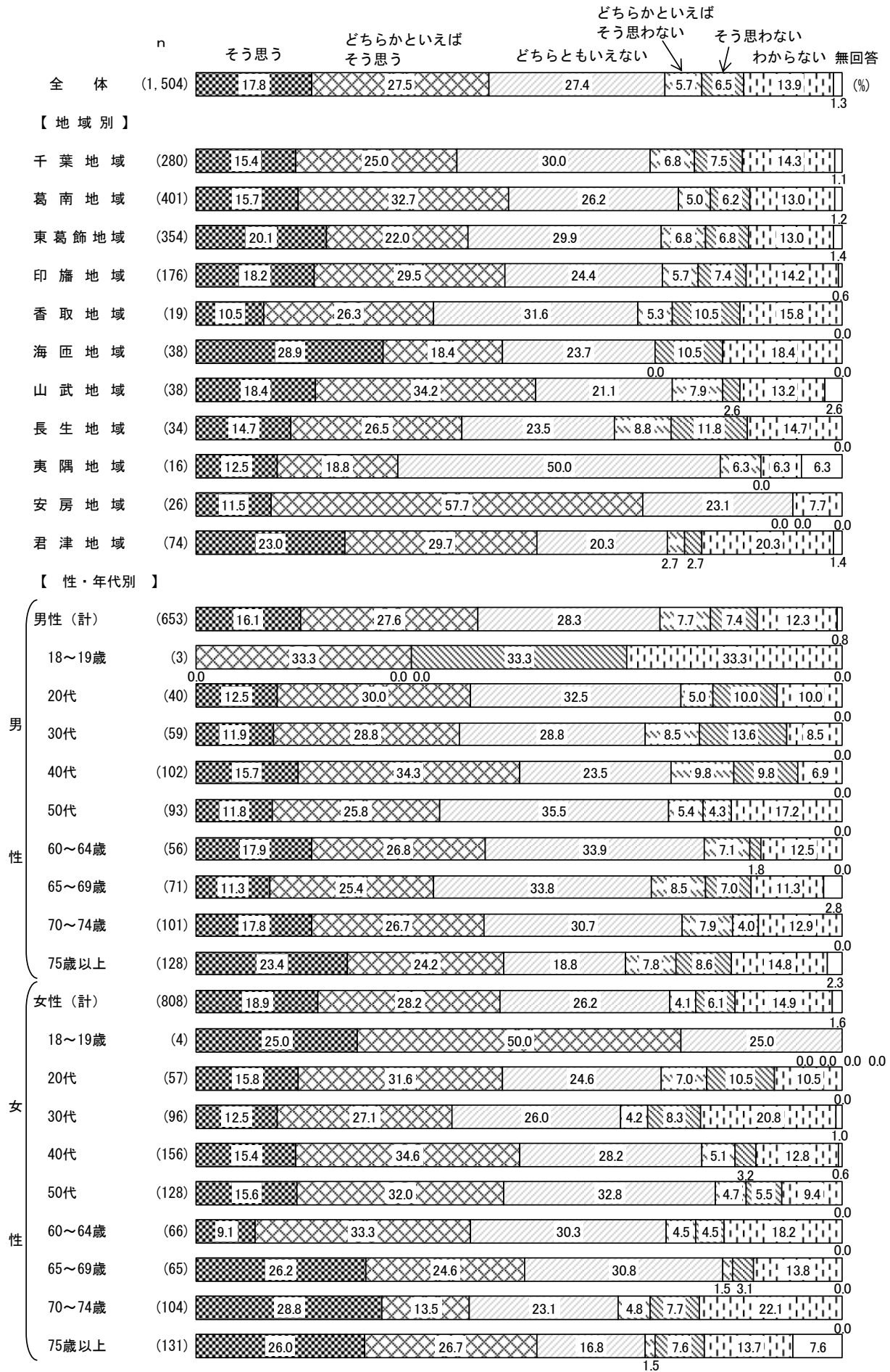
【地域別】

地域別で大きな傾向の違いはみられない。（図表２－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思わない（計）』は、男性30代（22.0%）が２割を超え、男性40代（19.6%）が約２割で高くなっている。（図表２－８）

<図表 2-8> 今後の災害支援活動への参加意向／地域別、性・年代別



このほかにも、「災害ボランティア等について」や問4～問6について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、270人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「災害ボランティア等について」の自由回答（抜粋）

- 被災地では野菜や果物がとても貴重になると聞きます。すでにそのような活動はされているかもしれませんが、県内で廃棄されるものをお送りしてあげたら喜ばれると思いました。日持ちしないものなので、輸送の問題、保存の問題はあると思いますが。（女性、40代、葛南地域）

- ちばボランティアナビのようなアプリがあるとやりやすいと思いました。それと、ちばボラは良い取り組みだと思いましたが、多くの人に知られていないと思うので、チラシや宣伝でPRするともっと良いと思います。（男性、20代、東葛飾地域）

- 支援活動にかかる交通費等を負担してほしい。（男性、20代、千葉地域）

- 災害ボランティアも大勢が行くと迷惑とか、物資も不必要な迷惑な品もあると聞きました。どんな物が必要でどこに持って行けばいいか、子育てで現地に行けない場合、どのような支援のやり方があるのかわかりやすく、大々的にお知らせしてほしい。ちばボランティアナビのようなサイトがあることも知らなかったのです。（女性、40代、東葛飾地域）

- 災害ボランティアに参加しているかたは本当に立派だと思います。自分が災害地でボランティアをしても体力が無いので足を引っ張ってしまうのではないかと考えてしまいます。できることとすれば少額の寄附や、観光地の復興のタイミングにもよりますが、観光の協力をしたいと思います。（女性、50代、東葛飾地域）

- 近年の震災の記事では、災害支援活動への注目が逆に渋滞になるので来ないでくださいなどの記事を、特に能登地震では多く見かけたので、なるべく大人しくしたほうがいいのではないかなと思うようになりました。（女性、20代、君津地域）

- ボランティア活動を行いたいと思うが、会社員では無理があります。会社にはボランティア休暇はあるが取得者はほぼゼロである。会社が悪いでもなく休まれたら業務が滞るので理解する。結局、育児、介護等全てで休暇制度はあっても現実的に休暇を取れば残った社員に負担がかかり取ることはできない。（男性、40代、千葉地域）